

# 蒲生麓における武家門の保全状況

郷土集落の歴史的環境保全と住環境整備に関する研究 その1

正会員 ○ 境野健太郎1\*  
正会員 友清 貴和2\*\*

武家門 麓 郷土集落  
保全 蒲生町

## 1. はじめに

鹿児島県下には、藩制時代の外城制度により形成された「麓」と呼ばれる郷土集落が存在する。知覧や出水、入来など、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定された地域では、武家屋敷が並ぶ麓集落の景観がよく残されている。一方、本稿で報告する始良郡蒲生町は、当時の石垣や町割をほぼそのままの形で残す数少ない郷土集落でありながら、高齢化率は35%を超え、空き家の増加や住宅の老朽化、居住者の高齢化等、多くの問題を抱える地域となっている。しかし、伝建地区の指定を受けなかったことで、住宅の改修や敷地利用の変化による住みこなしが見られ、最近では武家屋敷のカフェへの転用やNPO法人による住民参加型のまちづくり事業など、蒲生の歴史や文化を生かした住まいやまちづくりを目指す動きも見られ始めている。本稿では、蒲生麓における住環境改善の様子を把握する第一段階として、蒲生麓に残る武家門について保全調査を行う。

## 2. 調査概要

昭和59年の蒲生町教育委員会の調査によれば、当時、蒲生麓に57棟の武家門が確認されている。本稿では、そのうち上久徳に存在する54棟について保全状況に関する外観調

査を行った。町役場の敷地内に移設された蒲生地頭仮屋正門を除く53棟の所在位置と保全状況を図2、表2に示す。  
[調査時期]2008年3-4月

## 3. 武家門の保全状況

蒲生町上久徳に現存する武家門は38棟である。文1)によれば、昭和59年に存在した53棟のうち明治以前の建立が37棟(69.8%)、昭和50年以降に建てられたものは6棟で

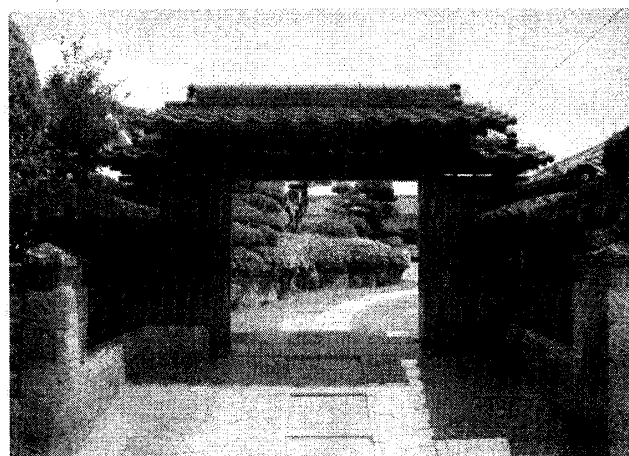


写真1 蒲生の武家門 (No.7)



図1 調査対象地

表1 蒲生町概要

面積	81.29km <sup>2</sup>
人口	6970人
世帯数	2981世帯
高齢化率	35.3% (県平均25.7%)

2008.4.1現在 (高齢化率のみ2007.10.1)

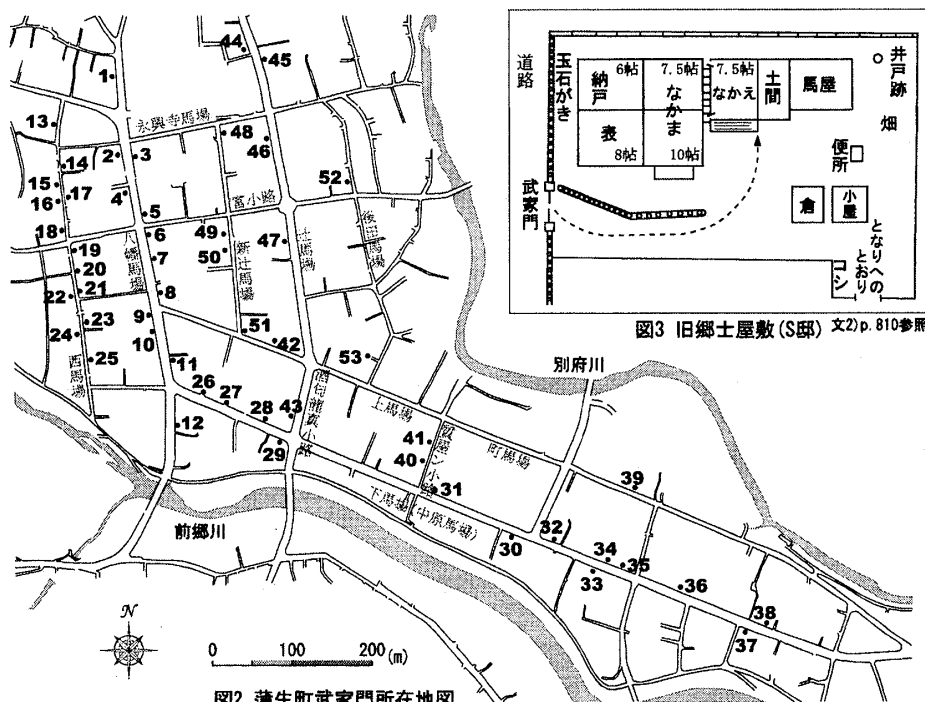


図2 蒲生町武家門所在地図

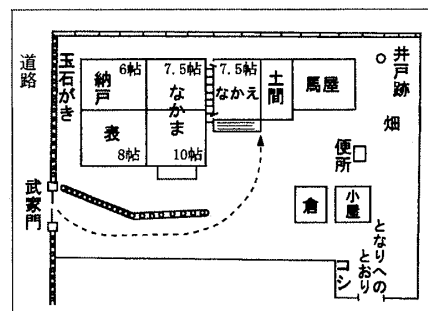


図3 旧郷土屋敷 (S邸) 文2) p. 810参照

The Preserved Condition of "BUKE-MONs" (the Gates of Samurai Residences) in Kamo Town.

SAKAINO Kentaro, TOMOKIYO Takakazu

ある。消失した15棟は、すべて49石以下の住宅に建立された武家門(表2・形式C)で、明治期に建立のものが10棟、昭和50年以降に建立のものが2棟と割合が高かった。

文1)では、調査時の武家門について、100石以上の形式が2棟、50-99石の形式が2棟としているが、文2)では100石以上の形式をもつ2棟を除き、すべて49石以下の門であるとしており、形式と実際の敷地面積および建立された時期等との、より精緻な検討が必要である。一般に、50石以上の住宅に見られる特徴は、観音開き戸の採用や不浄門の設置、本屋根横の小屋根の存在、雲板の設置等とされるが、現存する武家門を比較すると、塗壁や反り屋根、杉以外の材質の使用などにも特徴があったと考えることができる。100石以上の住宅になると、釘隠しの鉾が乳の形になる、前方に袖を設けるなどの特徴が現れるとされる。

同じように武家門が多く残されている道路であっても、西馬場は幅員が非常に狭く、また石垣が続いているため、古い時代の武家門のまま残されていることが多く、駐車場を構える場合に武家門脇を抜けて敷地内に車を進入させる事例も見られた。一方、道路の拡幅が行われた八幡馬場や

下馬場では昭和50年代以降に建てられた武家門が見られ、車の出入りのために門の入り口が広げられたと考えられるものも見られた。

#### 4. 今後の課題

今回調査した武家門は、外観からは比較的保全状態がよいと思われるものが多かった。しかし、外観調査では武家門の傷みをすべて把握することはできず、実際、裏側に多くの補修の跡が見られるものもあった。今後、住宅の改修や敷地利用の変化の把握とあわせ、武家門消失の過程、生活の中で武家門を保全する手段についても検討を重ねていきたい。また、蒲生町は郷土集落が集まる「麓」と商人が集まる「野町」に別れており、間口の狭い「野町」(町馬場のあたり)は武家門は少ないが、1階を駐車場にしたりセットバックにしたり、「麓」とはまた違った様相をなしている。高齢過疎地の問題、武家屋敷固有の住環境問題を把握するためにも、複眼的に考察を進める必要がある。

#### 参考文献

- 1) 蒲生町教育委員会 .1986.「蒲生の武家門」
- 2) 蒲生郷土誌編さん委員会 .1991.「蒲生郷土誌」

表2 調査対象武家門概要

No.	状態	作成年	形式	構造・特徴	No.	状態	作成年	形式	構造・特徴
1	×	明・中	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 袖 杉	28	○	昭15	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 袖 桶
2	○	昭10	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 袖 杉	29	○	昭56	C	板壁 瓦屋根 観戸 桶
3	○	明39	C	板壁・黒塗 瓦屋根 引戸(くぐり戸・右) 鐘 袖 桶	30	○	明30頃	C	板壁 瓦屋根 引戸(くぐり戸・左) 鐘 袖 桶
4	○	明・初	A	黒塗壁 瓦屋根 観戸(乳鉾6) 雲 樺	31	○	大正	C	白塗壁 瓦屋根 引戸 鐘 杉
5	○	昭55	B	白塗壁 反屋根 観戸(格子戸) 雲 袖 桶	32	○	大正	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 杉
6	○	明39	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 袖	33	○	江・末	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 杉
7	○	昭57	B	板壁 瓦屋根 引戸、不浄門・右 袖 桶	34	○	明26	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 袖 杉
8	○	昭56	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 袖 桶	35	○	明21	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 袖 杉
9	×	昭53	C	白塗壁 瓦屋根 引戸 袖 杉	36	○	江・末	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 袖 杉
10	×	昭23	C	板壁・黒塗 瓦屋根 引戸 鐘 杉	37	○	明・中	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 袖 杉
11	×	明・初	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 袖 杉	38	×	明・初	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 袖 杉
12	○	昭10代	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 杉	39	○	明・中	C	白塗壁 瓦屋根 引戸 鐘 杉
13	○	明・中	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 杉	40	×	江・末	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 杉
14	○	江・末	C	板壁 瓦屋根 引戸(ベニヤ板) 杉	41	×	明・初	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 袖 杉
15	○	昭4	C	板壁・黒塗 瓦屋根 引戸 鐘 杉	42	○	大正	C	板壁 瓦屋根 観戸 袖 杉
16	○	明・初	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 袖	43	×	昭50	C	白塗壁 瓦屋根 観戸 桶 杉
17	○	江・末	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 杉	44	○	大・初	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 杉
18	×	江・末	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘	45	○	明10	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 袖 杉
19	△	大3	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 袖	46	×	明17	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 袖 杉
20	○	明・初	C	板壁 瓦屋根 引戸(ベニヤ板) 鐘 杉	47	△	慶応	C	板壁 瓦屋根 引戸 杉
21	○	江・末	C	板壁・ベニヤ 瓦屋根 鐘 袖 杉	48	○	明・中	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 袖 杉
22	×	明・中	C	板壁 瓦屋根 引戸(ベニヤ板) 鐘 杉	49	○	江・末	C	板壁 瓦屋根 引戸 袖 杉
23	○	江・末	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 杉	50	○	明・初	C	板壁 瓦屋根 引戸 袖
24	○	文久3	C	板壁・黒塗 瓦屋根 引戸 杉	51	×	明・初	C	板壁 瓦屋根 反屋根 引戸 鐘 袖 桶
25	×	明・初	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 袖 杉	52	×	明・初	C	板壁 瓦屋根 反屋根 引戸 雲 鐘 袖 桶
26	○	明・中	C	板壁 瓦屋根 引戸 鐘 杉	53	×	明・初	C	板壁・ベニヤ板 瓦屋根 引戸 杉
27	○	文化13	A	白塗壁 反屋根 観戸(乳鉾6)、不浄門・右 袖 桶					

【状態】○:良好 △:破損あり ×:消失 【作成年】江:江戸 初:初期 中:中期 末:末期 【形式】A:100石以上 B:50-99石 C:10-49石  
 【構造・特徴】(屋根)すべて瓦葺き 反屋根:反り屋根・瓦葺きを表す (扉)引戸:引き合わせ戸 観戸:観音開き戸 くぐり戸:不浄門の位置は向かって右/左 (雲)雲板あり (鐘)鐘板あり (袖)袖あり (材質)杉・桶・樺(ケヤキ)・檜(台湾ヒノキ・外材ヒノキ)

\* 鹿児島大学工学部建築学科 助教・工博  
 \*\* 鹿児島大学工学部建築学科 教授・工博

Assistant Prof., Faculty of Engineering, Kagoshima Univ., Dr. Eng.  
 Prof., Faculty of Engineering, Kagoshima Univ., Dr. Eng.